株主のみなさまへ

第143期 第2四半期連結累計期間
株主通信

平成20年4月1日～平成20年9月30日

マツダ株式会社

株主のみなさまへ

代表取締役会長
社長兼CEO（最高経営責任者）

井巻　久一

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申しあげます。ここにマツダグループの第143期第２四半期連結累計期間（平成20年４月１日から平成20年９月30日まで）の業績ならびに通期業績見通しについてご報告申しあげます。

経営成績

当第２四半期連結累計期間は、原材料価格の高騰や国際金融市場の動揺による為替変動の影響、さらには世界的な景気減速による消費の鈍化など、厳しい事業環境が続きました。そのような中、国内では新型「マツダ ビアンテ」を投入し、また８月には北米向けに開発した新型「マツダ6」の販売も開始いたしました。さらに、前期に導入した「マツダ デミオ（海外名 マツダ2）」、「マツダ アテンザ（海外名 マツダ6）」の貢献もあり、グローバル販売台数は前年同期比6.3%増の701千台となりました。販売台数は増加したものの、為替の円高に加えて会計処理の変更などにより、当第２四半期連結累計期間における売上高は１兆5,755億円（前年同期比4.9%減）となりました。営業利益は、台数・構成の改善があったものの、為替の円高や原材料価格の上昇といった外部環境の悪化により、607億円（同16.9%減）となりました。その結果、四半期純利益は、295億円（同1.7%増）となりました。

なお、中間配当につきましては、１株あたり３円とさせていただきます。

新商品

７月には、「見て、乗って、夢が拡がるZoom-Zoom Tall（ズームズームトール）」をコンセプトに国内専用に開発された新型ミニバン「マツダ ビアンテ」を発売し、多くのお客様からご支持をいただいております。また同月、北米市場により適したボディサイズ、エンジン排気量を実現し、北米の道路環境に適したハンドリングと快適性を高次元に両立させた北米向け新型「マツダ6」を、フォード・モーター・カンパニーとの合弁会社であるオートアライアンス・インターナショナル（ミシガン州フラットロック）で生産開始し、８月末より市場に投入いたしました。さらに９月には、軽自動車「マツダ AZ-ワゴン」をフルモデルチェンジして発売いたしました。

生産・販売体制

今年６月、防府工場（山口県）の累計生産台数が800万台を達成いたしました。2003年に市場導入した「マツダ アクセラ（海外名 マツダ3）」が世界的に好調な販売を毎年続けてきたことに加え、昨年８月に生産を開始した新型「マツダ アテンザ」の新車効果もあり、700万台から800万台までの

第２四半期累計実績および通期業績見通し（連結・単独）

		第２四半期累計		通期	
		実績	前年同期比	業績見通し	前期比
連結業績	売上高	15,755億円	4.9％減	30,000億円	13.7％減
	営業利益	607億円	16.9％減	900億円	44.5％減
	経常利益	485億円	15.7％減	900億円	39.4％減
	当期純利益	295億円	1.7％増	500億円	45.6％減
単独業績	売上高	12,015億円	5.4％増	21,800億円	11.5％減
	営業利益	246億円	37.3％減	200億円	75.9％減
	経常利益	221億円	32.5％減	410億円	51.7％減
	当期純利益	144億円	36.5％減	240億円	56.3％減

*1. 当連結会計年度より、「四半期財務諸表に関する会計基準」及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」を適用しております。
*2. 通期業績見通しには、リスクや不確定要素が含まれており、実際の業績とは大きく異なる結果となる場合があります。

100万台の生産は、最短となる1年11ヵ月で達成しました。

海外では、2009年内に小型乗用車の生産を開始するオートアライアンス（タイランド）の新乗用車工場建設も順調に進んでおります。

また、6月にトルコで新たな販売網を設立し、10月にはオランダで直営販売統括拠点の営業を開始いたしました。これにより、欧州での直営販売統括拠点は22拠点で40ヵ国の市場を統括することになり、直営販売統括拠点を通じた販売台数は欧州での販売台数全体の約9割を占めています。

研究開発

持続可能なクルマ社会の実現を目指し、環境技術の開発強化に取り組んでおります。6月には、将来のCO_2排出量削減に向けた取り組みとして、2015年までにマツダ車の燃費を30％向上させる計画を発表いたしました。同月、デュアルフューエルシステムを搭載した世界初の水素ハイブリッド自動車「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」が国土交通大臣認定を取得し、翌月には、既に実用化している「マツダ RX-8 ハイドロジェンRE」と共に、「G8北海道洞爺湖サミット」期間中のイベント「環境ショーケース」にて展示・デモンストレーション走行を行いました。現在は、当期中のリース販売開始に向けて公道走行試験中です。

また、10月には、ノルウェーの水素エネルギーのインフラ整備を目的とした国家プロジェクト「ハイノール」と共同で、水素ロータリーエンジン車「マツダ RX-8ハイドロジェンRE」によるノルウェーでの公道走行を開始いたしました。

通期業績見通し

今後、マツダグループを取り巻く事業環境は、一層厳しさを増す見通しです。原材料高騰の影響や主要通貨の円高、グローバルでの販売環境悪化などを踏まえ、第143期（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）通期業績見通しを修正いたしました。グローバル販売台数の計画は前期比3.1％増の140万5千台とし、連結売上高3兆円、営業利益900億円、当期純利益500億円といたしました。外部環境の悪化を克服すべく、ビジネス効率を改善し、コスト革新活動とブランド価値向上を加速させるため、全社を挙げて果敢に取り組む所存です。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

平成20年11月

井巻久一

連結業績ハイライト

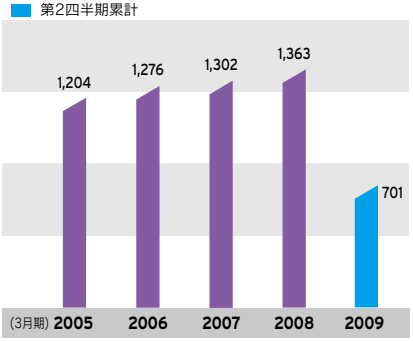
当第２四半期累計実績

（前年同期比）

■グローバル販売台数	70万1千台	(6.3%増)
■連結売上高	1兆5,755億円	(4.9%減)
■連結営業利益	607億円	(16.9%減)
■四半期純利益	295億円	(1.7%増)

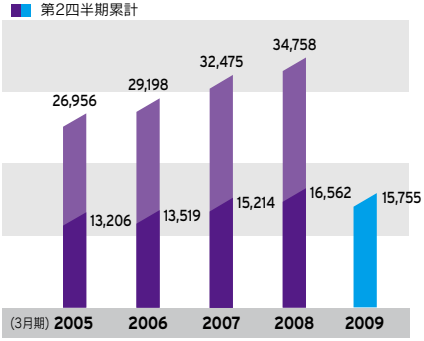
グローバル販売台数

（千台）



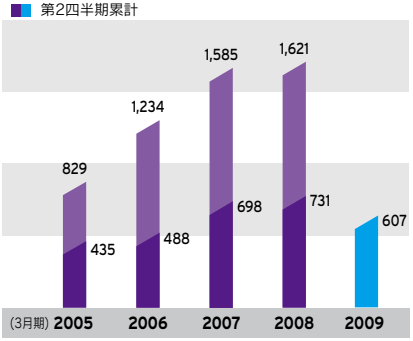
連結売上高

（億円）



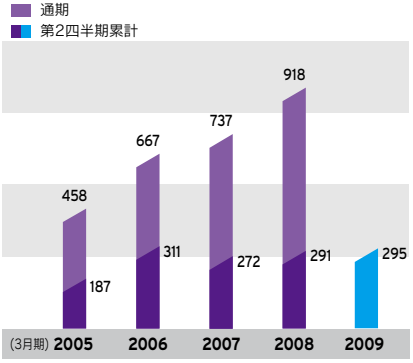
連結営業利益

（億円）



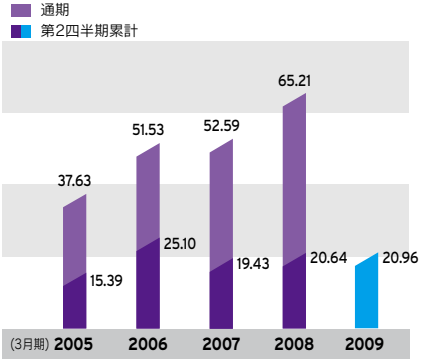
当期純利益

（億円）



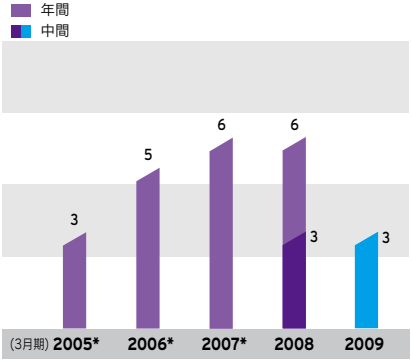
１株当たり当期純利益

（円）



１株当たり年間配当金

（円）



* 中間配当なし

当第２四半期連結累計期間の経営環境

当第２四半期連結累計期間（平成20年４月１日から平成20年９月30日）のマツダグループを取り巻く経済環境は、米欧金融機関の破綻等を背景にした国際金融市場の動揺の影響から、海外経済の減速が明確になりました。国内では、国際商品市況の反落により、企業物価の上昇テンポは幾分鈍化したものの、エネルギーや食料品の価格動向から消費者物価は上昇し、個人消費は低調でした。輸出増勢の鈍化や設備投資の減少が続き、国内の景気は停滞しています。さらに世界的な株安や為替相場での円高基調が続き、当企業集団を取り巻く環境は、今後も予断を許さない状況です。

当第２四半期連結累計期間の業績

当第２四半期連結累計期間の主要市場での販売台数は、国内では新車需要が低迷する中、新型「マツダ ビアンテ」の投入や「マツダ アテンザ」の新車効果などにより、123千台と前年同期並みとなりました。一方、海外では、北米は総需要低迷を受け、200千台（前年同期比6.2%減）となり、欧州では新型「マツダ２（日本名マツダ デミオ）」、「マツダ CX-7」などの販売寄与により179千台（同17.3%増）、中国では「マツダ６（日本名マツダ アテンザ）」などの牽引により63千台（同52.6%増）、その他市場では136千台（同5.2%増）となりました。これらを合計したグローバル販売台数は701千台（同6.3%増）と増加したものの、為替の円高に加えて会計処理の変更があったことなどにより、連結売上高は前年同期比807億円減の１兆5,755億円（前年同期比4.9%減）となりました。営業利益は台数・構成の改善があったものの、為替の円高や原材料価格の上昇といった外部環境の悪化により、前年同期比124億円減の607億円（同16.9%減）となり、売上高営業利益率は3.9%となりました。経常利益は、前年同期比91億円減の485億円（同15.7%減）となりました。なお、法人税等調整後の四半期純利益は、四半期財務諸表に関する会計基準の適用による影響などにより、前年同期比４億円増の295億円（同1.7%増）となりました。

当第２四半期連結累計期間の財政状態

当第２四半期連結会計期間末の総資産は、前期末より551億円増加の２兆406億円となり、負債合計は、前期末より370億円増加の１兆4,684億円となりました。これらの増加は、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用などによるものです。純資産は、前期末より180億円増加し、5,722億円となりました。なお自己資本比率は前期末に比べ0.1ポイント増加し、27.9%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益468億円および減価償却費379億円に対して、法人税等の支払いがあったことなどにより130億円の増加となり、投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資290億円などにより352億円の減少となりました。これらの結果、連結フリー・キャッシュ・フローは、222億円の減少となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加などにより93億円の増加となりました。

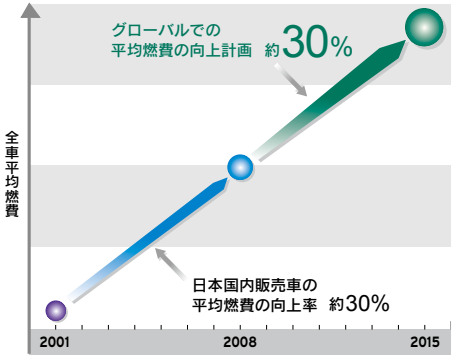
有利子負債から現金及び現金同等物の第２四半期連結会計期間末残高2,157億円を除いた純有利子負債は、前期末比937億円増加の3,748億円となり、純有利子負債自己資本比率は、前期末から15ポイント上昇し、66%となりました。

特集:マツダの環境に優しいクルマづくり

マツダでは、サステイナブル（持続可能）な未来の実現に向けて、排出ガスのクリーン化や燃費の向上などクルマの環境性能を高めるとともに、次世代自動車の開発・実用化にも積極的に取り組んでいます。本特集では、走る楽しさと優れた環境性能を両立するマツダらしいクルマをお客様に提供するために、現在進めている活動をご紹介します。

マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド

平均燃費の向上



CO_2排出削減に向けた取り組み

2015年までにマツダ車の燃費を30%向上

マツダは、2001年から2008年の7年間で、国内で販売するマツダ車の平均燃費を約30%向上させてきました。さらに、2008年6月には2015年までにグローバルで販売するマツダ車の平均燃費を2008年度比で30%向上させる計画を発表しました。この計画を達成し、全てのマツダ車のCO_2排出量を削減するためにガソリンエンジンやディーゼルエンジンなどのパワートレインの一新と新型プラットフォーム（車体の骨格部分）の導入などを進めていきます。

水素ロータリーエンジン車

ノルウェーで水素ロータリーエンジン車の公道走行を開始

2008年10月、ノルウェーの水素エネルギーのインフラ整備を目的と

した国家プロジェクト「ハイノール(HyNor)」と共同で、水素ロータリーエンジン車「マツダ RX-8 ハイドロジェンRE」による同国の公道走行を開始しました。これは、マツダの水素ロータリーエンジン車として初めての海外における本格的な公道走行となります。今回の車両はモニター車として、来年度からの本格的な導入前にマツダとハイノールが協力して、現地で走行性能などの評価を行うことを目的としており、環境イベントなどへの参加や水素自動車のリースを希望するユーザーへの車両紹介も行う予定です。来年度から約30台の水素ロータリーエンジン車のリース販売を計画しています。

「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」が国土交通大臣認定を取得

水素でもガソリンでも走行できるデュアルフューエルシステム*を搭載した世界初の水素ハイブリッド自動車「マツダ プレマシー ハイドロジェンREハイブリッド」が、2008年6月に国土交通大臣の認定を受け、ナンバープレートを取得しました。ハイブリッドシステムを採用することで出力を従来比40%、水素での航続距離を同比2倍の200kmと、その性能を大幅に向上させました。今年7月には、「G8北海道洞爺湖サミット」期間中のイベント「環境ショーケース」にも提供し、現在は、当期中のリース販売開始に向けて公道走行試験中です。

* 運転席でのスイッチの切り替えにより、水素での走行／ガソリンでの走行を選択できるシステム

進化するマツダの環境技術

独自の「スマート アイドルストップ システム」を開発

マツダは、渋滞や信号待ちなど一時停止する機会が多い市街地走行において、ガソリン車の燃費を約10%*向上させるとともに、直噴エンジン技術の活用によりすばやい再始動を実現し、再発進時にドライバーに違和感を与えない独自の「スマート アイドルストップ システム」を開発しました。

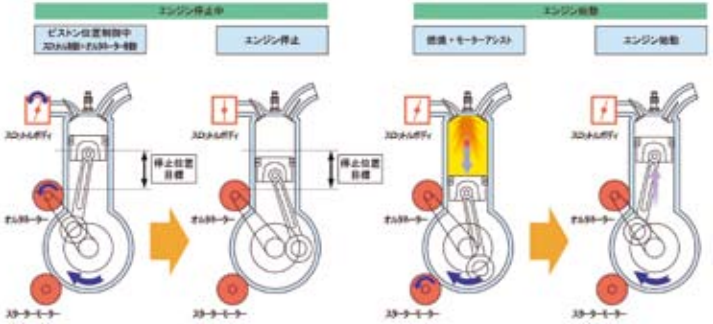
アイドルストップシステムとは、ドライバーが車を停車させると自動的にエンジンを切り、発進時にエンジンを再始動させることによって燃費を改善させるシステムです。

環境性能向上の基幹技術として2009年に市場導入を予定しています。

* 国内10・15モード

モニター車両「マツダ RX-8 ハイドロジェンRE」引渡しセレモニー

スマート アイドル ストップ システム



出力性能と環境性能を大幅に向上させた新型クリーンディーゼルエンジンを開発

マツダでは、ガソリン車に匹敵する出力性能と環境性能を兼ね備え、大幅に進化させた新型クリーンディーゼルエンジンMZR-CD 2.2を開発しました。このエンジンは、従来型のMZR-CD 2.0から排気量を1割拡大し、クラストップレベルのトルク性能を実現しながらも、インジェクターの改善や低圧縮比化などにより低燃費を実現しています。また、マツダが独自開発した世界初の触媒活性メカニズムを採用した新型DPF*により、ディーゼルエンジン特有のススの燃焼処理において処理時間を従来比で約60%効率化し、欧州の排ガス規制EURO（ユーロ）5に対応しています（社内測定値）。

新型クリーンディーゼルエンジンMZR-CD 2.2

さらにバランスシャフトの採用やエンジンブロックの剛性を向上させ、ディーゼルエンジン特有の振動も大幅に低減し、すぐれた静粛性を実現しています。

この新型クリーンディーゼルエンジンは、2009年より欧州から順次導入していく予定です。

* 新開発DPF：ディーゼル・パティキュレート・フィルター ススの燃焼処理速度を大幅に高めることにより、ススの燃焼処理に必要な燃料を節約することができ、低燃費化によるCO_2の削減と排出ガスのクリーン化を両立させることができます。

樹脂の使用量を30％削減できるプラスチック成形技術を開発

マツダでは、車両軽量化の技術として、自動車用に使われるプラスチック部品の質量を大幅に削減できるプラスチック成形技術を開発しました。この製造技術により、材料となる樹脂の使用量を約20～30%削減でき、軽量化を実現することが可能となります。

このプラスチック成形技術は自動車に使用されるほとんどのプラスチック部品に展開可能であることに加え、断熱性や音響特性などの部品の機能性（付加価値）を高めることができます。また、これまで用いられてきた技術に比べ、より環境負荷が少なく、リサイクルも容易な樹脂発泡成形技術です。

食糧と競合しないバイオプラスチックの技術開発に着手

マツダは、広島大学と共同研究契約を結び、6月より「マツダ・バイオプラスチック・プロジェクト」に着手しました。本プロジェクトは、セルロース系バイオマスを原料としたバイオプラスチック技術開発を行い、2013年までに自動車への実用化を目指しています。

今回、技術開発するバイオプラスチックは、間伐材や稲わらなど食糧として適さないものを原料とするセルロース系バイオマスを使用するため、食糧と競合しない利点があります。また、セルロース系バイオマスは植物由来のカーボンニュートラル*な資源であり、有限資源である化石燃料の使用量およびCO_2の排出量を減らすことができます。

* 植物由来の資源は、分解・燃焼の際に放出されるCO_2の量が、植物が成長過程で吸収したCO_2と釣り合っており、大気中のCO_2の増減に影響を与えません。このような性質を「カーボンニュートラル」と呼びます。

Topics 01 ロサンゼルス・モーターショーで新型「Mazda3」セダンを世界初公開

2008年11月、2008ロサンゼルス・モーターショーで5年ぶりのフルモデルチェンジとなる新型「Mazda3（日本名：マツダ アクセラ）」のセダンを全世界で初めて公開しました。現行「Mazda3」は、マツダの全販売台数の約3分の1を占める、ブランドを代表するグローバルなスポーツコンパクトとして、これまでに100ヵ国以上で合計約180万台が販売され、90を超える自動車賞を獲得しています。新型「Mazda3」は現行「Mazda3」のスポーティな走りを進化させ、あらゆる場面でドライバーの「爽快感」を極める事をコンセプトに、日米欧全拠点のエンジニアやデザイナーが総力を結集し、総合的な「走りの質」を飛躍的に向上させています。

新型「Mazda3」セダン（北米仕様車）

Topics 02 欧州での販売網・物流網を強化

2008年6月にトルコで、10月にはオランダで新たな販売統括拠点の営業を開始しました。欧州におけるマツダの直営販売統括拠点は22拠点で40ヵ国の市場を統括することになり、これらを通じた販売台数は欧州での販売台数全体の9割以上を占めます。また10月には、ロシア向けにシベリア鉄道での自動車輸送を開始しました。30両編成の専用列車で、ウラジオストック近郊からモスクワまでの約9,300kmの行程を、旅客列車と同等のわずか10日で運びます。これにより、ロシアのお客様への納車期間を短縮していきます。マツダはこれからも、欧州でのブランド価値向上と販売体制強化に向けた取り組みを前進させていきます。

シベリア鉄道 専用列車内部の様子

Topics 03 軽自動車「マツダ AZ-ワゴン」をフルモデルチェンジして発売

2008年9月、幅広い層のお客様から支持されている軽自動車「マツダ AZ-ワゴン」をフルモデルチェンジしました。今回の改良は5年ぶりで、従来から評価の高いスペース効率や機能性を進化させながら、内外装の質感や室内の快適性を大幅に向上させています。また、スポーツ感・質感をさらに高めた上級モデル「AZ-ワゴン カスタムスタイル」も同時に全面改良しました。「マツダ AZ-ワゴン」シリーズは、全国のマツダオートザム系、マツダ系、マツダアンフィニ系販売店にて発売中です。

「マツダ AZ-ワゴン カスタムスタイル」（上）
「マツダ AZ-ワゴン」（下）

匠 車体塗装編

ロボット化の時代に息づく塗り師の技

若手技能者に塗装技術を教える三浦敏高社員

前回の「株主通信」でご紹介したこのコーナーには、多くの方々よりご声援をいただきました。そこで今回は、マツダで40年以上にわたり自動車塗装に従事し、現在は若手技能者の育成に取り組む三浦社員をご紹介します。

直接、商品に触れずにクルマを仕上げる。それが「塗装」の仕事

三浦敏高（みうら としたか）は、1966年に東洋工業（現マツダ）に入社しました。1998年に広島県技能者表彰を受け、1999年には卓越技能者「現代の名工」に選ばれました。そして2001年に黄綬褒章を受章しています。

「プレスや車体、機械加工や車両組立でも、必ず商品（クルマ）に直接、加工を施し付加価値をつけます。しかし、塗装だけはクルマと自分との間にある空気を介して、商品を仕上げます。そこに塗装の難しさと面白さがあります」と三浦は語ります。「塗装は、何よりも表面が滑らかで美しく輝いていなければいけません。ボディの外板はもちろん、ボンネットの裏など目立たない部分も心を込めて均質に仕上げることが、マツダの品質なのです」

昼夜を問わず、一日千台以上のクルマを量産する自動車工場も、現在では、溶接や塗装などの工程は、専用ロボットによる自動化が進んでおり、三浦が入社した当時から大きく様変わりしています。

先輩の仕事を背中で覚えた新人時代

「塗装の職場に配属された当時は、塗装のことは何も知らず、ベテラン社員の仕事ぶりを黙って見ているだけでした。昔はクルマ１台、全てを人間が吹いて（塗装して）いたので、もし途中で失敗したら取り返しのつかないことになります。だからお客様にお届けする商品は、経験を積んだ者しか塗装させてもらえませんでした」。そんな新人時代に三浦が思いついたのは、ボディの構造を断面図にして自分のノートに描くことでした。クルマの部位ごとに形状を描き、さらに吹き付けの角度やスプレーの距離、姿勢など気づいたことを丹念に記すうちに、ノートはびっしりとメモで埋まっていました。

こうした日々の積み重ねが、後のロボット化に大きく活かされることになります。無駄なく動く塗装ロボットも、実は人間が動作や吹き付ける圧力の強弱を細かく覚えこませているのです。ロボットに作業を教示するには、ボディの形状を理解し、乾燥後の塗膜状態を想定して数値を補正する能力が求められます。人間に高度な技能がなければ、ロボットを使いこなすことも、ロボットの能力を存分に引き出すこともできないのです。

手のひらで生卵を包む感覚で。塗装面の映りこみで仕上がりを確認

現在では、三浦は若手技能者の育成にあたっています。「自分の場合は、経験や培った感覚をイメージしやすいように例えています。スプレーガンを握る時、握り方を見せてもその強弱は伝わりません。ですので手のひらで生卵を包む感覚でスプレーガンを握るように言います。塗装後は、ボディに映りこむ蛍光灯の光が歪んでいないか、自分の顔や体の映り方はどうか、といった説明を心がけています」。そして、彼のもとで指導を受ける若手社員はまず、塗料ではなく水を吹き付ける練習をさせられます。水を吹きながら正しい塗装の姿勢を覚えこませるのです。「何よりも基本を大切に、大事に仕事をする人が本当の技能者だと思います。クルマは多くの人の手を経て完成しますが、どの工程、どの作業をとっても不要なものは一つもありません。どんな小さな部分でも大切にしなければなりません」。だからこそ三浦は、仕事が好きで、基本を大切にする技能者を育てたいと考えています。

「60歳を過ぎましたが、これからも一人でも多くの技能者を育てていきたいですね。彼らには、まず自分の仕事を好きになり、創意工夫しながら幅を拡げていって欲しい。そういう人がマツダにたくさんいれば、お客様にも自然と喜んでもらえるのではないでしょうか」

「基本」を信条にする塗装の匠は、今日も後輩たちの指導に余念がありません。

Profile

プロフィール

三浦 敏高（みうら としたか）

1966年 東洋工業（現マツダ）に入社
1998年 広島県技能者表彰
1999年 卓越技能者
「現代の名工」に選出
2001年 黄綬褒章を受章

「株主さまご参加イベント」のご案内

今年で３年目となる「株主さま工場見学会」に加え、今回は新たに横浜での「環境技術フォーラム」を開催いたします。
また、いずれのイベントも、株主様１名につき同伴者１名様（ご家族・ご友人など）まで一緒にご参加いただけます。

1.「環境技術フォーラム 2009」

■ **見学日時（予定）：** 平成21年（2009年）3月29日（日）午後

■ **見学場所：** マツダR&Dセンター横浜
（神奈川県横浜市神奈川区守屋町２番５号 ）

■ **集合場所：**「マツダR&Dセンター横浜」へ直接お越しください。
*当日のご集合場所までの交通費はご参加者のご負担とさせていただきますので、ご了承ください。

■ **人数：** 50組100名様（株主ご本人様と同伴者１名様）

（環境技術担当エンジニアによるプレゼンテーション、水素ロータリーエンジン車展示、ならびに同乗などを予定しています。）

「マツダR&Dセンター横浜」の主な研究内容
・先行商品の企画
・先行デザインの調査研究・開発
・重要新技術の先行研究

携帯サイトで地図をご覧いただけます。

2.「広島地区 工場見学会」

■ **見学日時（予定）：** 平成21年（2009年）3月20日（金） 春分の日
午前、または午後（いずれか半日）

■ **見学場所：** マツダ（株）本社工場
（広島県安芸郡府中町新地３番１号）

■ **集合場所：**「マツダ本社ショールーム」へ直接お越しください。
*当日のご集合場所までの交通費はご参加者のご負担とさせていただきますので、ご了承ください。

■ **人数：** 50組100名様（株主ご本人様と同伴者１名様）

「マツダ本社工場」の主要生産車種
マツダ デミオ、マツダ RX-8、
マツダ ビアンテ、マツダ プレマシー、
マツダ MPV、マツダ CX-7、
マツダ ロードスターなど

携帯サイトで地図をご覧いただけます。

お申し込みについて

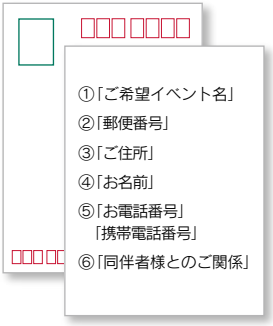
■ **お申し込み方法：** ハガキに、①「ご希望イベント名」、ご参加者全員の②「郵便番号」 ③「ご住所」④「お名前」 ⑤「お電話番号（携帯電話をお持ちの方は携帯電話番号も）」 ⑥「同伴者様とのご関係」をご記入の上、以下の宛先までお送りください。

■ **宛先：** 〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地３番１号
マツダ株式会社 財務本部 IR室「株主さまイベント」係

■ **電話：** 082-287-4114（ご不明な点は、こちらまでお問い合わせください。）

■ **締切：** 平成21年（2009年）1月10日（土）到着分まで

*1. イベントの日程は都合により変更する可能性がありますので、ご了承ください。
*2. ご応募多数の場合は誠に勝手ながら抽選とさせていただきます。ご参加いただく株主様には後日、郵送にて詳細をご連絡いたします。
*3. ご応募に伴いお預かりした株主様ならびに同伴者様の個人情報につきましては、本イベントの実施以外の目的では一切利用いたしません。
*4. 当日のご集合場所までの交通費はご参加者のご負担とさせていただきますので、ご了承ください。



■「株主通信」アンケート結果ご報告

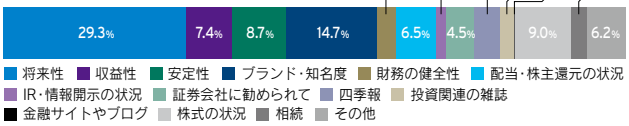
前回の「株主通信」でお願いしましたアンケートに、多数の方々よりご協力をいただき、誠にありがとうございました。

貴重なご意見、ご回答を真摯に受け止め、今後の「株主通信」の編集やIR活動に活かしていく所存です。

アンケート結果から、以下の項目についてご報告させていただきます。

当社の株式について

購入動機(複数回答可)



「株主通信」について

「株主通信」で興味を持たれた記事(複数回答可)

アンケートでは多数のご質問・ご要望を頂戴しました。その一部をご紹介し、お答えいたします。

Q. 水素ステーションなどのインフラ整備は、どの程度進んでいるのでしょうか？

A. 水素燃料は水素自動車だけでなく、燃料電池車にも使用されており、現在もインフラ整備に向けた実証試験や利用が進められています。国内では、マツダも参画している経済産業省の「水素・燃料電池実証プロジェクト（JHFC）」で首都圏、中部地区、関西地区に11基の水素ステーションを整備し実証試験を行っています。また広島県では、2005年2月にマツダが中国地方で初めて、本社敷地内に水素ステーションを常設しました。一方、海外でも米国、カナダ、ドイツ、ノルウェー、アイスランドなど、各国政府や研究機関、エネルギー関連企業が中心となって水素ステーションの設置に取り組んでおり、現在、その数は増え続けています。しかし、実用化に向けては、コストの低減や採算性の維持、水素精製時のCO_2排出量削減、水素の取扱に関する基準統一などの課題があります。世界各国でCO_2削減活動は加速しており、水素ステーションの実用化に向け、これら課題の早期解決が期待されています。

Q. 首都圏（関東）での株主向けイベントの実施予定はありますか。

A. マツダでは、株主の皆様とのコミュニケーションを重視し、当社の取り組みをできるだけ多くの方々にご理解いただきたいと考えています。アンケートでは、広島・山口以外での見学会について、実に多くの方からご要望をいただきました。そこで今回、初めて、マツダR&Dセンター横浜で開催する「環境技術フォーラム2009」にご招待いたします（P.11をご覧ください）。今後も、このような取り組みを継続していきたいと考えていますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

■「社会・環境報告書2008」「アニュアルレポート2008」の発行について

マツダでは、2008年3月期の事業活動を中心とした企業の社会的責任（CSR）についての考え方や活動をまとめた「社会・環境報告書 2008」、および、株主・投資家の皆様向けに経営情報や財務情報をまとめた「アニュアルレポート 2008」を発行しています。

下記のホームページよりダウンロードが可能です。また、ご希望の方には冊子の配布も行っていますので、ホームページよりご請求ください。

社会・環境報告書2008
http://www.mazda.co.jp/corporate/csr/
アニュアルレポート2008
http://www.mazda.co.jp/corporate/investors/library/annual/

社会・環境報告書2008

アニュアルレポート2008

主要商品ラインアップ

マツダのブランドメッセージ“Zoom-Zoom”を体現したマツダの主要商品ラインアップを紹介します。

スタイル 乗車定員	駆動方式 エンジンタイプ	燃費(10.15モード) 価格(万円)*消費税込 (別途リサイクル料金が必要となります)

なんでもできそう! マツダ ビアンテ誕生。

Mazda ビアンテ

ミニバン	FF 4WD 2000 DISI	10.6-12.8km/L
8人	2300	200 250 300

もっとアグレッシブに、もっと上質に。

Mazda MPV

海外市場での車種名:Mazda8

ミニバン	FF 4WD 2300	9.4-12.2km/L
8人	2300 DISI ターボ	200 300 400

全員集GO!!!!! PREMACY

Mazda プレマシー

海外市場での車種名:Mazda5

ミニバン	FF 4WD 2000	11.0-15.0km/L
7人	2000 DISI 2300	150 200 250

妥協なく、迷いなく、さらなる高みへ。

Mazda RX-8

スポーツカー	FR 13B-MSP ロータリー	9.0-10.0km/L
4人		250 300 350

進化が止まらない。

Mazda アテンザ

海外市場での車種名:Mazda6

5ドアスポーツ 4ドアセダン ステーションワゴン	FF 4WD 2000 2500	10.4-14.2km/L
5人		200 250 300

スタイル 乗車定員	駆動方式 エンジンタイプ		燃費(10.15モード) 価格(万円)*消費税込 (別途リサイクル料金が必要となります)

進化するスポーツコンパクト、マツダ アクセラ。

Mazda アクセラ

海外市場での車種名:Mazda3

5ドアスポーツ 4ドアセダン	FF	4WD	11.2-18.0km/L
	1500		
	2000		
5人	2300		150 200 250
	2300 DISI ターボ		

コンパクトカーのすべてをもう一度作り直しました。

Mazda デミオ

海外市場での車種名:Mazda2

コンパクトカー	FF	e-4WD	17.8-23.0km/L
	1300		
5人	1500		100 150 200

BY DESIGN コンパクトカーが知らなかった上質を。

Mazda ベリーザ

コンパクトカー	FF	e-4WD	17.2-18.4km/L
	1500		
5人			100 150 200

スポーツカーの、先にあるもの。

Mazda CX-7

SUV*	FF	4WD	8.9-9.1km/L
	2300 DISI ターボ		
5人			300 350 400

*スポーツユーティリティビークル

生まれ変わる、という性能。パワーリトラクタブルハードトップ。

Mazda ロードスター

海外市場での車種名:
Mazda MX-5 Miata /Mazda MX-5

スポーツカー	FR		11.8-13.4km/L
	2000		
2人			200 250 300

新しいクオリティに乗ろう。NEWマツダ AZ-ワゴン誕生。

Mazda AZ-ワゴン

軽自動車	FF	4WD	20.0-23.5km/L
	660		
4人	660 ターボ		50 100 150

連結貸借対照表

（単位：億円）

	当第２四半期末 平成20年9月30日現在	前期末 平成20年3月31日現在
資産の部		
流動資産	**9,334**	**8,953**
現金及び預金	1,124	1,210
受取手形及び売掛金	2,003	2,013
有価証券	1,033	1,030
たな卸資産	2,937	2,877
その他	2,256	1,844
貸倒引当金	△20	△20
固定資産	**11,073**	**10,903**
有形固定資産	**9,259**	**8,984**
建物及び構築物（純額）	1,546	1,551
機械装置及び運搬具（純額）	2,114	2,157
土地	4,434	4,422
リース資産（純額）	639	353
その他（純額）	527	501
無形固定資産	**313**	**340**
投資その他の資産	**1,501**	**1,579**
投資有価証券	906	927
その他	644	702
貸倒引当金	△44	△43
投資損失引当金	△6	△6
資産合計	**20,406**	**19,856**

	当第２四半期末 平成20年9月30日現在	前期末 平成20年3月31日現在
負債の部		
流動負債	**8,402**	**8,449**
支払手形及び買掛金	3,398	3,367
短期借入金	1,175	699
１年内返済予定の長期借入金	207	329
１年内償還予定の社債	200	200
リース債務	179	131
未払法人税等	91	223
未払費用	1,902	2,035
製品保証引当金	596	515
その他	655	949
固定負債	**6,282**	**5,865**
社債	950	850
長期借入金	2,737	2,616
リース債務	458	225
再評価に係る繰延税金負債	937	937
退職給付引当金	973	998
その他の引当金	5	6
その他	221	232
負債合計	**14,684**	**14,314**
純資産の部		
株主資本	**4,697**	**4,467**
資本金	1,501	1,501
資本剰余金	1,338	1,338
利益剰余金	1,911	1,673
自己株式	△52	△45
評価・換算差額等	**1,004**	**1,055**
新株予約権	**3**	**2**
少数株主持分	**18**	**18**
純資産合計	**5,722**	**5,542**
負債純資産合計	**20,406**	**19,856**

*1. 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。
*2. 当連結会計年度より、「実務対応報告第18号 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用等、会計処理を変更しております。

連結損益計算書

（単位：億円）

	当第２四半期累計 平成20年4月 1日から 平成20年9月30日まで	前第２四半期累計 平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで
売上高	**15,755**	**16,562**
売上原価	11,833	11,750
売上総利益	**3,922**	**4,812**
販売費及び一般管理費	3,315	4,081
営業利益	**607**	**731**
営業外収益	**110**	**86**
営業外費用	**232**	**241**
経常利益	**485**	**576**
特別利益	**4**	**2**
特別損失	**21**	**36**
税金等調整前四半期純利益	**468**	**543**
法人税等	172	246
少数株主利益	1	6
四半期純利益	**295**	**291**

*1. 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。
*2. 当連結会計年度より、「実務対応報告第18号 連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用等、会計処理を変更しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

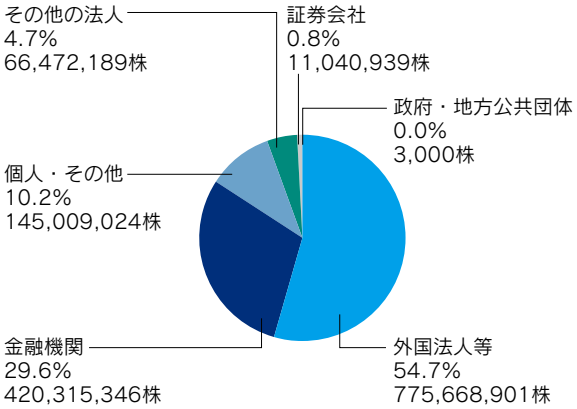
	当第２四半期累計 平成20年4月 1日から 平成20年9月30日まで	前第２四半期累計 平成19年4月 1日から 平成19年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	130	403
投資活動による キャッシュ・フロー	△352	△488
財務活動による キャッシュ・フロー	93	△135
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△7	23
現金及び現金同等物の 増加額（△は減少）	△137	△196
現金及び現金同等物の 期首残高	2,239	2,425
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	54	–
現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,157	2,229

* 記載金額は億円未満の端数を四捨五入しています。

株式の状況（平成20年9月30日現在）

発行可能株式総数	3,000,000,000株
発行済株式総数	1,418,509,399株
株主数	53,997名 （前期末比7,903名減少）

所有者別状況



大株主

株主名	持株数（千株）	出資比率（%）
フォード モーター カンパニー	473,535	33.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	77,085	5.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	57,654	4.1
東京海上日動火災保険株式会社	40,410	2.9
株式会社三井住友銀行	37,624	2.7
三井住友海上火災保険株式会社	32,483	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4G）	29,285	2.1
株式会社損害保険ジャパン	20,210	1.4
日本生命保険相互会社	15,553	1.1
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口4）	13,308	0.9

（注）出資比率は、自己株式10,113,856株を控除して計算しています。

株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である次ページ記載の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、次ページ記載の電話照会先にお願いいたします。

株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて

＜買取請求＞

特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日（平成21年1月5日）から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払いは平成21年1月26日以降となります。

＜買増請求＞

平成20年12月12日から平成21年1月4日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日（平成21年1月5日）から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。

会社概要（平成20年9月30日現在）

商号	マツダ株式会社
設立	大正9年1月30日
資本金	150,068,000,602円
従業員数	21,464名
主要な事業内容	乗用車・トラックの製造、販売等
本社	〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3番1号 電話(082) 282-1111
東京本社	〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目1番7号 電話(03) 3508-5031
大阪支社	〒531-6008 大阪市北区大淀中1丁目1番88-800号 電話(06) 6440-5811
ホームページURL	http://www.mazda.co.jp/

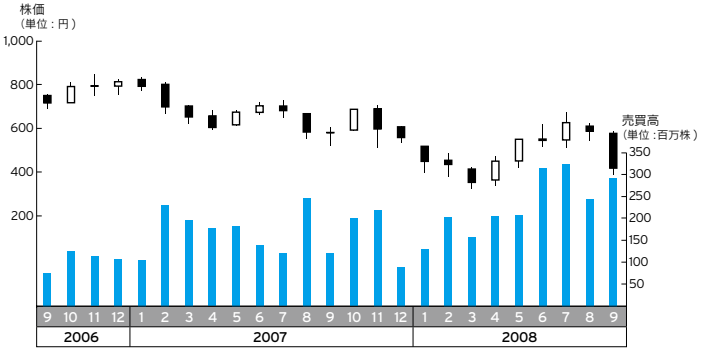
取締役および監査役（平成20年9月30日現在）

代表取締役	**井巻 久一**
代表取締役	**フィリップ・ジー・スペンダー**
代表取締役	**山内 孝**
代表取締役	**デービッド・イー・フリードマン**
取締役	**ダニエル・ティー・モリス**
取締役	**尾崎 清**
取締役	**金井 誠太**
取締役	**山木 勝治**
取締役	**若山 正純**
監査役（常勤）	**山本 順一**
監査役（常勤）	**若松 重喜**
監査役	**小松 健一**
監査役	**坂井 一郎**
監査役	**赤岡 功**

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日 （定時株主総会において権利を行使すべき株主の確定日） そのほか必要がある場合は、あらかじめ公告します。
公告掲載新聞	中国新聞および日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
・ 郵便物送付先	〒183-8701　東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
・ 電話お問合せ先	住所変更等用紙のご請求 0120-175-417 その他のご照会 0120-176-417
・ ホームページURL	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
単元株式数	1,000株
証券コード	7261

株価および売買高の推移（東京証券取引所）



Mazda Motor Corporation

zoom-zoom

2008年モスクワモーターショー出品車
「マツダ風舞（かざまい）」

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association
本誌は環境にやさしい大豆インキを使用しています